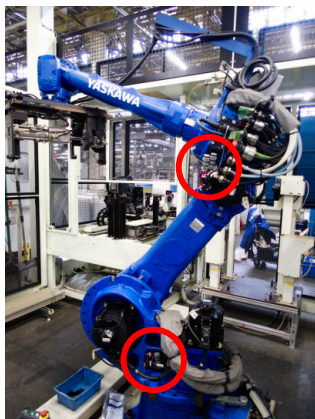


2025 年 8 月 18 日

SUBARU 全固体電池を搭載した工場設備のテスト運用を開始

SUBARU は、エンジンやトランスミッションの生産拠点である群馬製作所 大泉工場にて、マクセル株式会社（東京都港区 以下、マクセル）のセラミックパッケージ型全固体電池「PSB401010H」を、同工場で使用する産業用ロボットおよびプログラマブルロジックコントローラー*1 へ搭載し、8 月よりテスト運用を開始しました。



全固体電池を搭載した産業用ロボット
（赤丸の位置に全固体電池の電源モジュールを搭載*2）



マクセルの全固体電池を搭載した電源モジュール

自動車の製造工程においてファクトリーオートメーション*3を実現する産業用ロボットは、メモリを保護するためのバックアップ用電源の多くに一次電池*4が搭載されています。通常、一次電池を使用する産業機器においては、1 年～2 年程度の期間で定期的な電池交換が必要となり、使用済み電池が産業廃棄物として排出されます。今回、当社工場において使用している産業用ロボットに全固体電池を搭載することにより、10 年以上、交換不要な長い電池寿命を生かして、産業廃棄物ならびに産業用ロボットのメンテナンス工数などの削減を推進します。このような取り組みを通じて、当社が目標とする Circular Economy（循環経済）の実現を目指します。

SUBARU グループは「笑顔をつくる会社」の実現に向けて、SUBARU グローバルサステナビリティ方針のもと、グループ・グローバルで意思を共有しながらサステナビリティを推進しています。今後も SUBARU は真のグローバル企業として持続的な成長を目指すと共に、愉しく持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【関連リンク】

<SUBARU グループのサステナビリティ>

<https://www.subaru.co.jp/csr/>

*1: プログラムで定められた順序などに従って設備や機械の動きを制御する装置

*2: リリース掲載用に電池部のカバーを外して撮影（稼働時は安全のためにカバーを装着）

*3: 生産工場における製造工程を自動化するためにロボットやシステムを導入すること

*4: 充電して繰り返し使用することが出来ない使い切りタイプの電池のこと